

令和 6 年度の研究(または活動)内容

今年度は上映会の実施と予備調査及び研究方法の会議を行った。

1) 令和 6 年 4 月 オレンジランプの上映会を実施

4 月 30 日 14:00-オレンジランプ上映会と懇親会を実施した。プログラムは以下の通りである。

13:55- 司会+始めの挨拶(谷本)

14:00-15:40 映画上映

15:40-16:15 丹野さんと語る。(丹野さん+福井さん+田中さん+石原先生+井上先生)

16:15-16:20 終わりの挨拶(石井先生)



上映会の様子



懇親会の様子

2) 令和 6 年 12 月 認知症の人に関する研究についての予備調査の実施

日 時:令和 6 年 12 月 14 日(土)13:30-15:00

場 所:仙台市内の診療所の一室

参加者:丹野氏、谷本、認知症当事者 合計 7 名+遠隔参加者数名

・仙台市内の診療所で行われたリハビリ・カレッジにて研究を紹介していただき、当事者7名に質問し、聞き方の確認を行った

予備調査の結果

1) ヒアリング方法への助言

・まちの中の課題を問う際には、具体的事例を写真で提示したりすることでイメージが付き、話が広がりやすい

・一回だけでなく複数回(同じ人に)行った方が、当事者が身の回りの物理的課題に気づく可能性がある

・物理的課題があがった時に何が要因なのか通訳する医療関係者がいると良い

2) 物理的課題について

・ハンバーガー屋さんではお盆を使うので杖を使いながらだと大変である

・地下鉄の階段の登りと下りがどちらかわからなくなる

→視空間認知障害(高次機能障害の一種)、診療でも多く聞く課題

等、その他は割愛。

3) 令和 7 年 1-2 月 認知症の人に関する研究について調査方法の意見交換

1 月 23 日 (木) 13:00-、井上先生、石原先生、田中さん、福井さん

打ち合わせを受けて以下の点の方向性の見直しを行った。

- 研究対象を「グループホームに入る一歩手前で自立して生活している人」と明記
- 研究の目的文で全体の枠組みを説明、リカバリーカレッジでの調査結果は全体の研究の中の一つであることを明確に説明。リカバリーカレッジの当事者についても何らかの位置付けをして研究結果として出す。
- 在宅を支える施設（デイサービス、小規模多機能）でも調査する

2 月 14 日 (金) 17:30-、石井先生

- 困りごとが認知症によるものか、個人差によるものかの判別は難しい
- 認知症のための環境＝誰でも安心できる環境
- 研究方法について、リカバリーカレッジのディスカッションを積み重ねる形でわかるものと小規模多機能などで一対一でヒアリングしていくもの、どちらも価値はある
- アウトプットの形式は徐々に検討していくことになる。参考に豪州のアセスメントツールを共有していただく。こういったものの日本版はありうるか？

4) 令和 7 年 1-2 月 福岡オレンジパートナーズへの参画とロゴの作成

認知症に関する幅広い知識を得るため、福岡オレンジパートナーズに参画した。また、それと同時に研究所のロゴも作成した。掲載ページとロゴは以下の通りである。

掲載ページのリンク：<http://cybertest.xsrv.jp/friendly-center/partners/>

作成したロゴ：



認知症の人と環境研究所

Center for Research on the Environment of Dementia



認知症の人と
環境研究所

Center for Research
on the Environment of Dementia